

### 第3章 漢方の力

—理解を深めるために

#### ◆目から鱗(ウロコ)の茶筒話

---

西洋医学と東洋医学のものの見方の違いを、茶筒を使った例でご紹介します。

いろいろな症状が現れる病気を多次元的な存在として茶筒にたとえると、西洋医学の目では、それぞれの症状に個別に対処するので、内科、産婦人科、外科と診療科は違っても切り口はみな同じで、同じようなものの見方になります。つまり、茶筒でいえば、一度平面的に、つまり長方形としてとらえてしまうと、いつでも平面的な見方となり、常に長方形に見えてしまいます。

しかし、漢方などもう1つの見方をもったときに何が見えてくるかという、○、円です。別の視点をもつことで、全然違ったものが見えてくるといふ、目から鱗(ウロコ)の医学と言えるのです。こうした点に気がつくと、漢方がより面白くなっていきます。

---